

＃）ホルモン剤を使用する緊急避妊法（ヤッペ法）について

緊急避妊ピルは、時にモーニング・アフターピルとか性交後ピルなどと言われることがありますが、この表現は正確とは言えません。というのは、緊急避妊ピルは無防備な性交が行われてから72時間以内に使用するものだからです。世界で広く行われている緊急避妊法は、1970年代後半に開発されたヤッペ法です。この方法は、エチニールエストラジオール50 μ gとノルゲストレル0.5mgとの配合剤を、性交後72時間以内に2錠服用し、12時間後に同量服用する方法です。失敗率は、0～2%程度。避妊効果が高く、副作用が少ない、安価、服用法が簡単などの理由から緊急避妊ピルとして広く行われるようになりました。わが国では、この条件を満たすものとして、プラノバルとドオルトンがあります。

（日本家族計画協会2001年）

#) 緊急避妊ピルの具体的方法

性交

↓ (72時間以内)

プラノバル2錠服用

↓ (12時間後)

プラノバル2錠服用

↓

2週間して生理がなければ、

妊娠反応を

(避妊の成功率は、およそ95%)

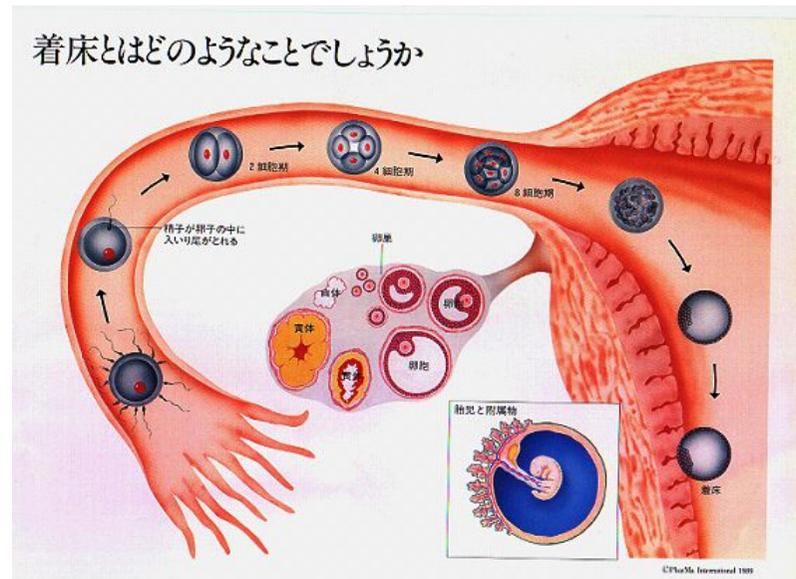
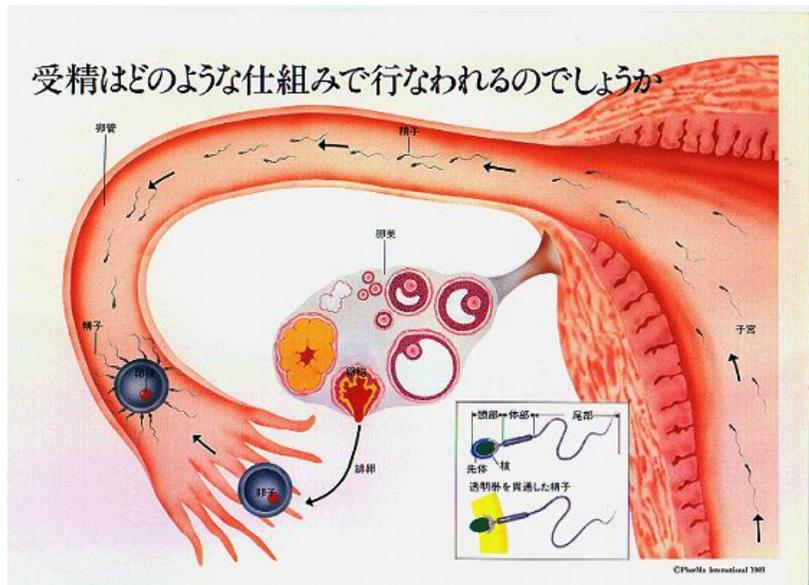
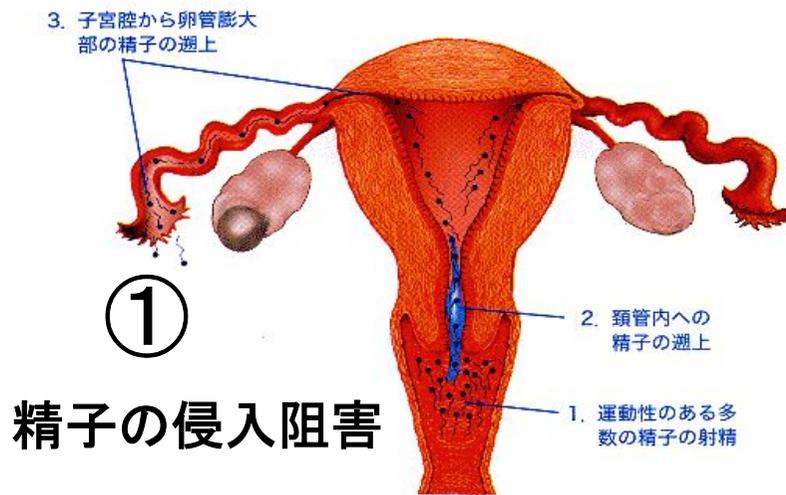
(セックスの時期によって危険率が異なる)

#) クリニックでは

- ① 性交時期が月経の何日目？
(排卵期に近い?)
- ② 超音波で、卵巣の状態を確認(卵胞)
- ③ 膣洗浄を施行

#) 緊急避妊ピルの作用機序

- ① 精子が子宮に入りにくくする（頸管粘液の粘調性亢進）
- ② 排卵の抑制
- ③ 受精卵の着床防止

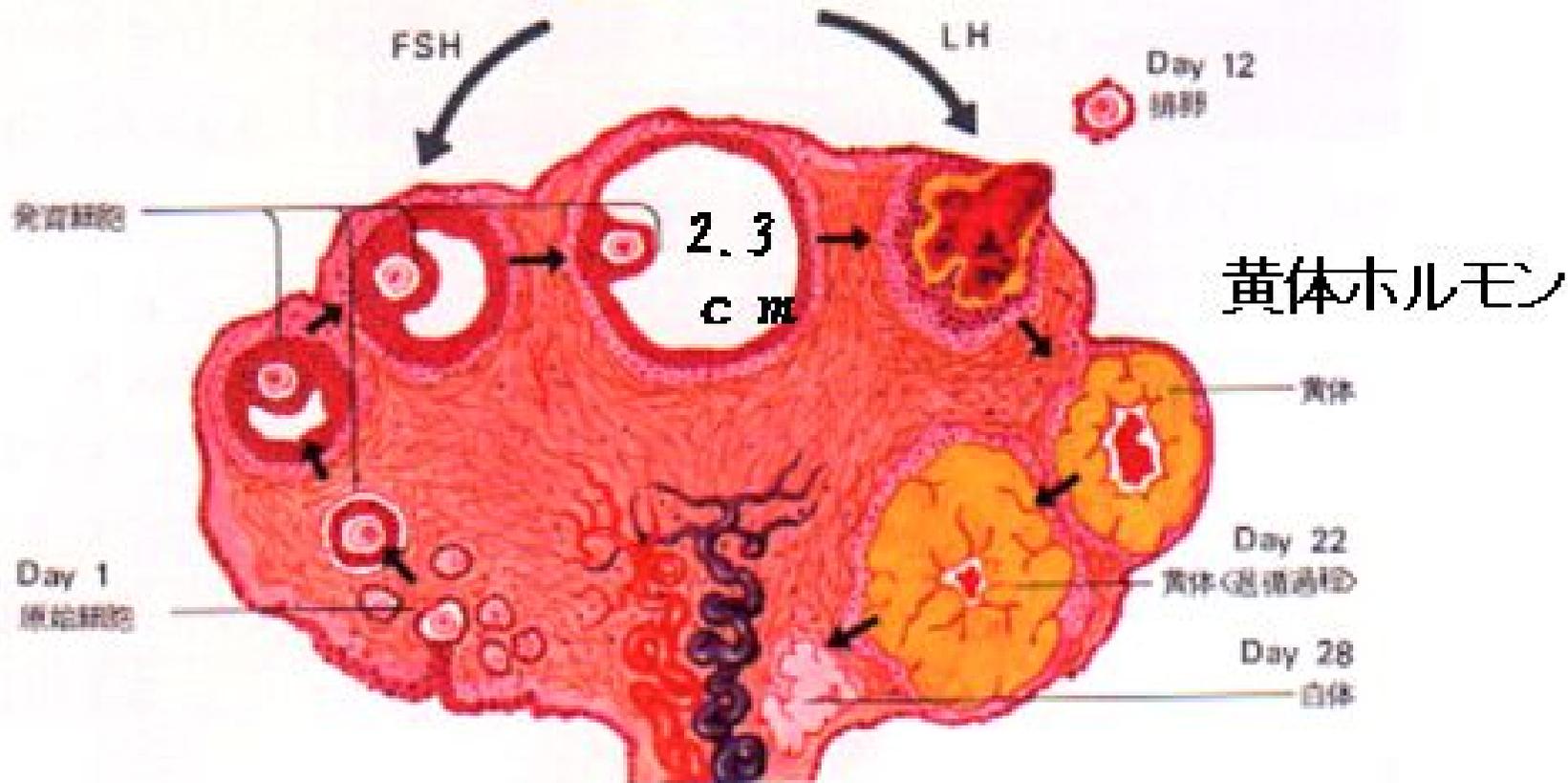


卵胞刺激ホルモン

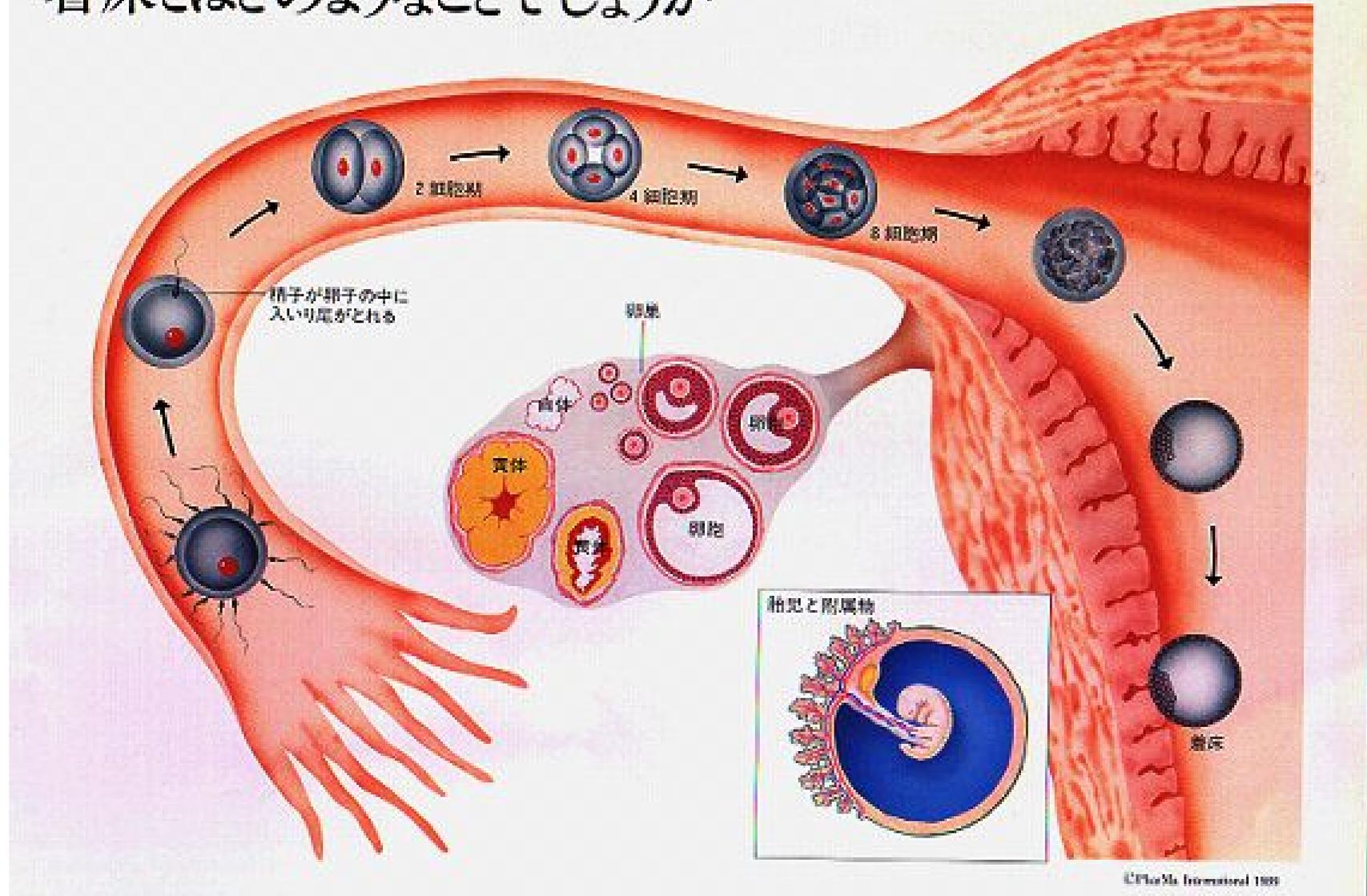
下垂体前葉



黄体化ホルモン

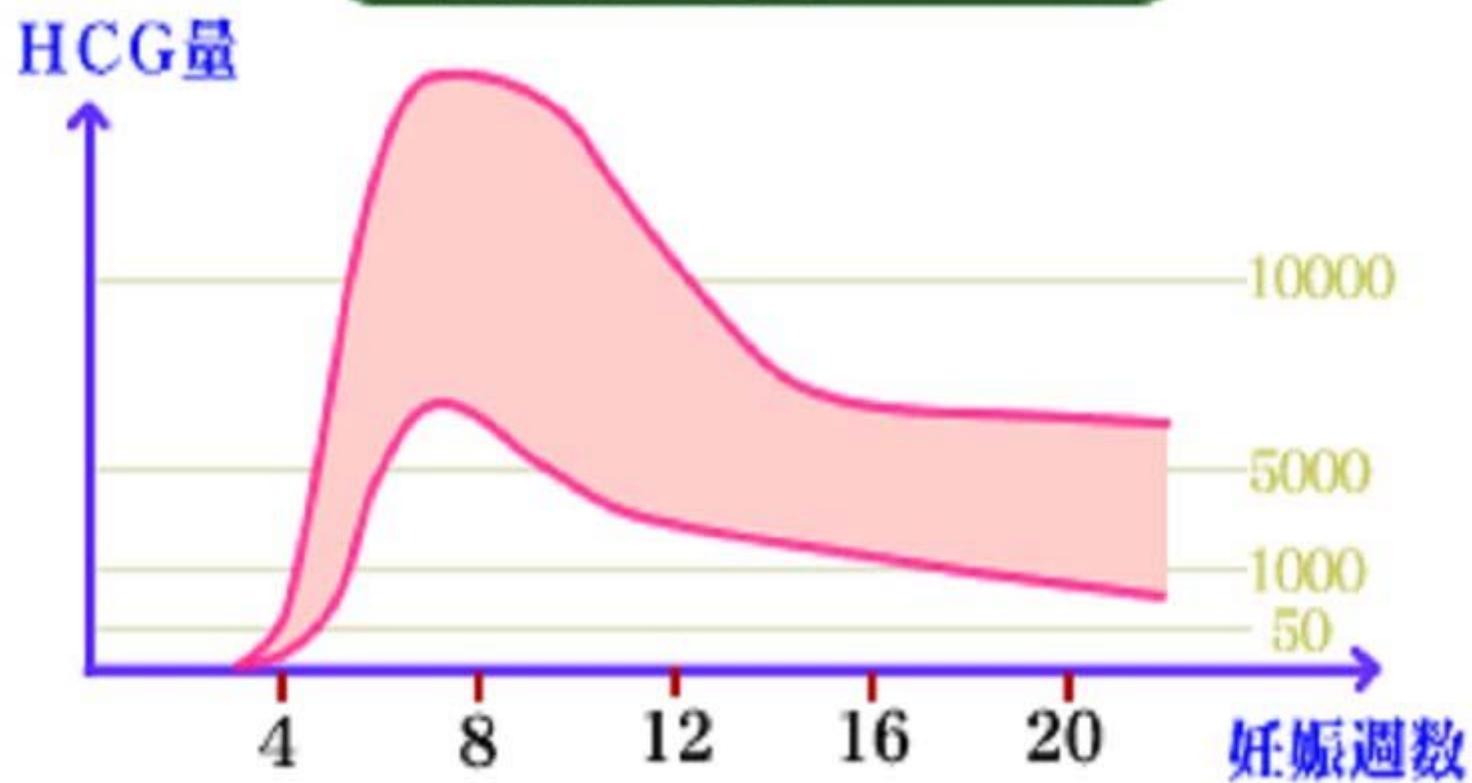


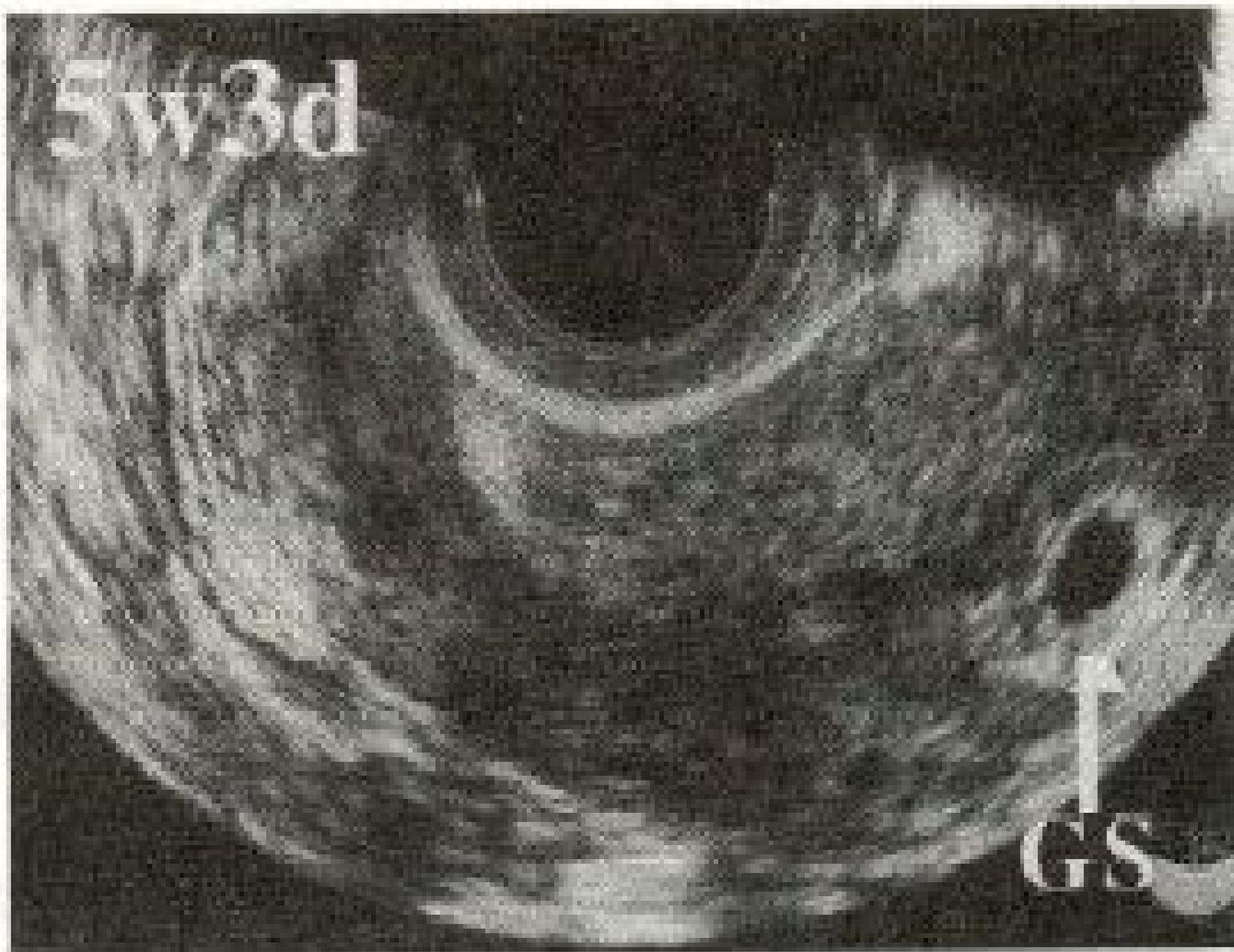
着床とはどのようなことでしょうか



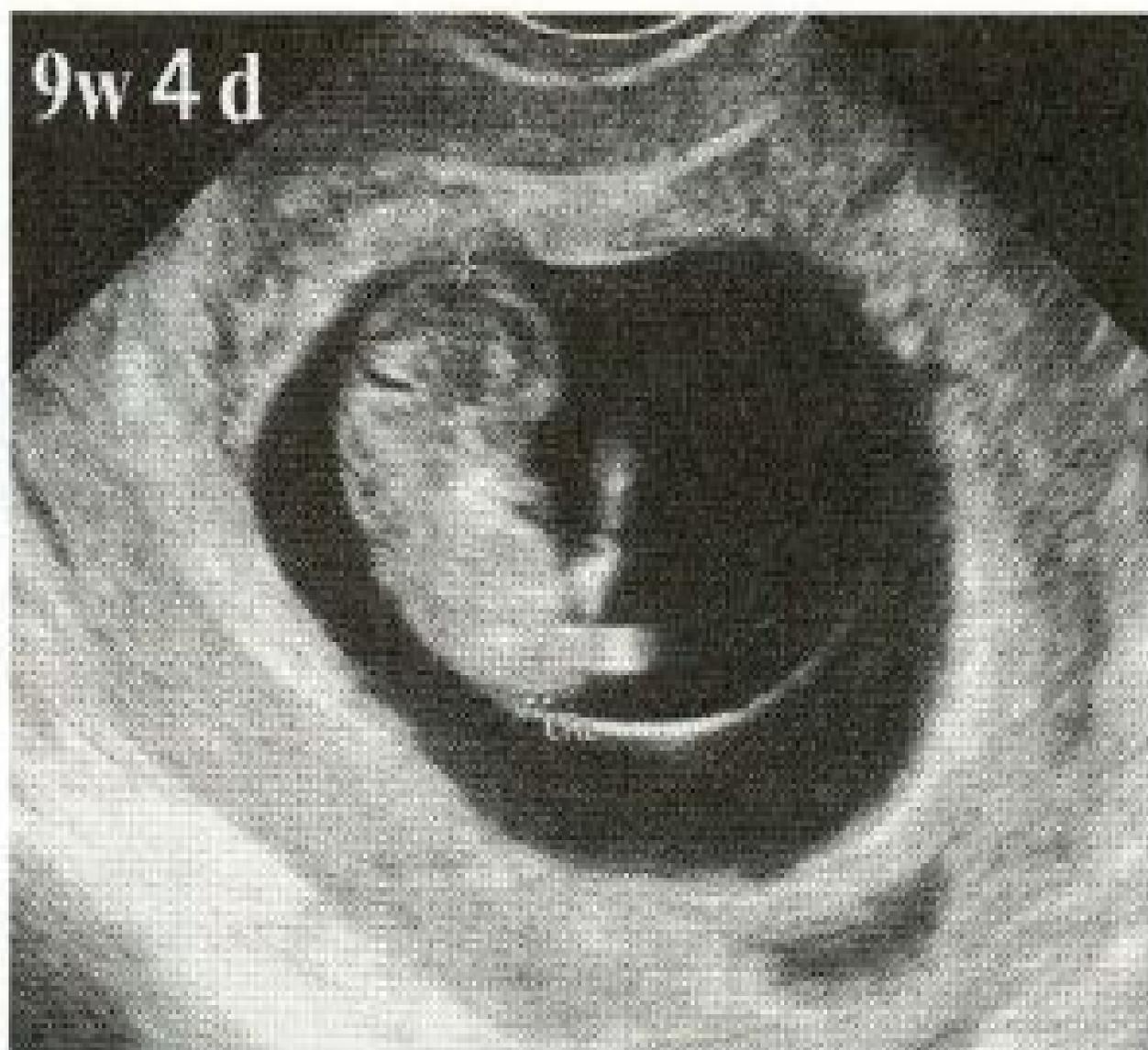
着床→絨毛形成→絨毛性ゴナドトロピン→妊娠反応陽性（受精後2週間後）

妊娠週数と尿中HCG量





(図 C-12-1) 妊娠 5 週 3 日の胎嚢(GS)像.



(図1) 妊娠9週4日の胎児矢状断像。CRLの計測は矢状断で行うことが望ましい。